

新潟市教育委員会 令和5年8月 定例会会議録

日時	令和5年8月 23 日(水) 午前 10 時 30 分			
場所	新潟市役所 ふるまち庁舎 4階 教育会議室1			
教育長	井崎 規之	/		
出席委員 (8名)	大宮 一真	出席委員	畠山 典子	
	五十嵐 悠介		石坂 学	
	齋藤 昭彦		神林 むつみ	
	乙川 千香	欠席委員	/	
	中津川 英子		/	
会議出席 教育委員会 事務局職員 (5名)	職・氏名		職・氏名	
	教育次長	池田 浩		
	教育次長	本間金一郎		
	教育総務課長	渡辺 和則		
	学校支援課長	三條 貴之		
	教育総務課補佐	相崎 敦子		
他部署 出席者(名)				

開会	時 刻	午前 10 時 30 分
	宣 言 者	教育長
付議事件 (3件)	議案第 11 号	令和 6 年度使用新潟市立高等学校用教科用図書の採択について
	議案第 12 号	令和 6 年度使用新潟市立高志中等教育学校後期課程用教科用図書の採択について
	議案第 13 号	教育委員会の事務の管理及び執行状況に関する点検・評価(案)について
報告 (1件)	令和 5 年度全国学力・学習状況調査の結果について	

第1 開会宣言

○教育長

午前 10 分 30 分 開会を宣言する。

これより、8月教育委員会定例会を開催いたします。

本日、報道関係者より委員会を撮影及び録音したい旨の申し出がありますが、これを許可することにご異議ありませんでしょうか。

(異議なし)

それでは、許可することで決定いたします。

会議録署名委員の指名

○教育長

日程第1「会議録署名委員の指名」を行います。新潟市教育委員会会議規則第 11 条の規定により、会議録署名委員に中津川委員及び畠山委員を指名します。

第2 付議事件

○教育長

次に、日程第2「付議事件」に入ります。

議案第 11 号「令和 6 年度使用新潟市立高等学校用教科用図書の採択について」及び議案第 12 号「令和 6 年度使用新潟市立高志中等教育学校後期課程用教科用図書の採択」は関連がございますので、一括して審議いたします。

それでは学校支援課長から説明をお願いいたします。

○学校支援課長

学校支援課です。それでは、議案第 11 号及び議案第 12 号について一括してご説明申し上げます。

なお、両議案でご審議いただく各教科用図書については、4 月の教育委員会定例会で承認いただいた「令和 6 年度使用新潟市立高等学校用教科用図書採択に関する基本方針」及び「令和 6 年度使用新潟市立高志中等教育学校後期課程用教科用図書採択に関する基本方針」に基づき、各学校が調査研究を行いました。各学校は、自校の教育課程と照合しながら、内容、配列、分量、図表、写真、資料の見やすさ等を比較検討したうえで、自校の実態に即して、教科用図書を選定いたしました。

本日は学校ごとに一括して説明させていただきます。

はじめに、万代高等学校の選定結果についてです。付議 7 ページから 11 ページに記載されております。

次に明鏡高等学校の選定結果です。12 ページから 16 ページに記載されております。明鏡高等学校は定時制、普通科の午前部と夜間部、それぞれの目的を踏まえて選定を行いました。

次に高志中等教育学校後期課程の 4 年生から 6 年生用の教科用図書の選定結果です。付議 17 ページから 18 ページに記載されております。

高志中等教育学校は中高一貫教育という特性を踏まえた選定結果となっております。中等教育学校後期課程では、高等学校用教科用図書を使用するため、需要学年については高等学校の学年に合わせて、そ

れぞれ高等学校 1・2・3 の学年用と記載されております。それぞれ中等教育学校の 4・5・6 年生ということでご理解いただきたいと思ひます。

教育委員の皆様には、これまでに各学校の教育目標を十分にご理解いただいた上で、各学校から出された教科用図書選定一覧に基づいて教科書を丁寧にご覧いただき、内容を把握していただいております。

それでは、議案第 11 号及び議案第 12 号についてご審議をよろしくお願いいたします。

○教育長

それでは、ただいまの説明にご意見やご質問がございましたら、ご発言をいただければと思ひます。

○畠山委員

私は数学の教科書を見させていただきました。主に数学 B と数学 2 について、それぞれの学校の教科書を見させていただきました。

まず万代高校についてなんですけども、数学 B については、ねらいとか練習とか解説が詳しく書いてあって、自分の力で自ら学んで力に応じて進んでいけるような内容になっているなと思ひました。数学 2 の方は、練習がふんだんにあって基礎・基本が身につく構成になっているのかなというふうに思ひました。

次に明鏡高校については、数学 B については、これは数学 2 も同じなのですが、B 5 版で教科書自体が大きくなっています。これ自体がもう見やすいということなんですけども、行間が空いていて読みやすくなっているなと思ひました。それからイラストとか写真がふんだんに使われているということと、ポイントが分かりやすく示してあって、生徒の皆さんが取り組みやすいなと思ひました。これについては数学 B、数学 2 同じ状況なんですけども、特に数学 2 の方では理解を助けるために、必要な公式が目立つように示されているなと思ひました。

それから、高志中等教育学校は、数学 B についてはとにかく練習問題が多くあって習熟を図るのに適しているなと思ひました。色があまり使われてなくて、すっきりとした教科書です。数学 2 につきましては、解説が丁寧にしてあって深めるというところに力が入れてあり、自分の力を試す内容になっているなと思ひまして、どの教科書もそれぞれの学校に適した内容だなと思ひました。

○教育長

ありがとうございます。ほかにごございますでしょうか。

○中津川委員

私は国語の教科のうち、2 学年以上の生徒が学ぶ古典・文学国語の教科書を読ませていただきました。まず、古典研究の科目ですが、万代高校の 2 年生が学ぶということです。教科書で目を引きましたのが、カラー刷りの資料集というのが巻頭にあり、本当に結構分量が多いのですよね。以前の古典のイメージ、私が持っていたものと違ってこんないっぱい資料集があって、まるで日本史のようだなと思ひながら見ていたのですけれども、ここには平安京の地図をはじめ、古典に出てくるこの人間関係とか、それから「漫画で学ぶ古典の常識」なんていうのもあって、これは生徒たちに導入として興味関心を引きやすいのではないかなと

思いました。

そして、明鏡高校の古典研究ですが、全体的に文字が大きめですので見やすいですし、1つ1つの話が長すぎずに、飽きないで見られるような工夫がされているなど思いました。

そして、高志中等は、来年度から変更なさることなのですが、今度はこの第一学習社なのですが、幅広いジャンルの教材が取られていて、基礎から大学入試で対応できる内容ということで。一つ思ったのが、活動の手引きというのがあり、教師と生徒の対話形式になっているのですね。こちらの方はとても分かりやすく探究学習を深めていく上で大変役立つアプローチだと思いました。

そして、文学国語は万代高校。それから明鏡高校で使われている教科書なのですが、こちらの万代高校の方は、定番と言われるものから、新しいものまでたくさん載っていたのですが、大人が読みましても本当に読み応えがある一冊という感じです。文学を学んで感性を育てて読解力や、それから創造力を高めてほしいなど思いました。

そして、明鏡高校の文学国語。これもこれまでの教科書には収められていないものもあり、生徒たちの関心を引くのではないかなと思いました。

それぞれの高校、教育理念やスクールミッション、生徒の実態に合わせて適する教科書を選定されていると思いました。以上です。

○教育長

ありがとうございます。ほかにございますでしょうか。

○乙川委員

私は美術と家庭基礎のところを拝見させていただきました。美術に関してですが、3校とも選定されています日本文教出版の高校生の美術ですが、現代までの西洋、日本の美術史の資料や写真が数多く記されておりまして、歴史や文化、時代の流行なども美術の変容に大きく影響していることが、分かりやすく記されているなど思いました。また、ユニバーサルデザインやサステナブルデザイン、イラストレーションなど、様々な作品を通して作者の意図や考え、工夫を感じ取るポイントや問いかけなどもあり、授業の進め方の方向性や学習の目的が明確で見やすい、そんな教科書だと思いました。

家庭基礎になりますが、私は高志中等教育学校の方の家庭基礎 1、2年生の教科書も拝見させていただいたのですが、家庭基礎というのは生きていく上でとても大切な学びの教科であると思っているのですが、このつながる暮らし、ともに作る未来という教科書の中に、胎児から乳幼児の身体的特徴を見よう、という箇所を拝見してみますと、体の様子、動き言葉、社会性生活習慣と妊娠してから、命が育まれる家庭がとても分かりやすく記されているなど思いました。ホームプロジェクトに取り組もうってところもあるのですが、自分自身が家庭生活を見直してみ、見えてきた課題について、解決を目指して計画を立てて実践していく、そういった実践例なども記されている学生自身が、これまでのラ

イフステージと、これからのライフステージで関わってくる法律や衣食住、家庭について社会生活をしていく具体的なイメージを持つことができる教科書だと感じました。

○教育長

ありがとうございます。ほかにございますでしょうか。

○五十嵐委員

私はですね、英語の方を参考と確認させていただきました。

まず、万代高校ではフレックスコミュニケーションが使われておりますけれども、こちらについては命のビザを出された杉原千畝さんですとか、これは食料危機など社会的なテーマを、長文でじっくりと考えて作っていく内容になっていました。また、速読のページが教科書の中で一定の割合で存在していて、翻訳する能力を育むということで、英語を英語として理解するためのトレーニングとしての教科書というふうになっているなど感じました。

明鏡高校さんではリストが使われていましたけれども、こちらは図や写真が非常に多く、自分の手を動かして穴埋めをするというような内容になっていて、文章を読み解くというよりも実践の会話ですとか、海外の YouTube、こういうようなものを主張するのに使えるような単語表現に重点が置かれているというように感じました。

高志中等では English Learning を使っていました。けれどもこちらはですね。ユニットごとにテーマを設けて、長文はもちろんなのですが、それだけではなくて、実際に英語圏で暮らしたり、生活することを想定したりするような生きた表現が大量に出てきておりました。また、ギャップイヤーですとか地球上から消える言語社会問題。このようなものもテーマに向き合える仕組みになっていて、英語学習を通じて社会で活躍できる人材を育成したいというような、学校の意図とあった内容ではないかというふうに感じました。

○教育長

ありがとうございます。ほかにございますでしょうか。

○石坂委員

私は理科全般に関わって見させていただきます。まず、どの学校も教育目標やスクールポリシーに照らして適切な教科書を選んでおられるというふうに感じています。

一つ一つの学校を見た時に、まず万代高校ですが、万代高校は基礎とその上の応用の部分の、1年生で基礎を学んで、例えば2年、3年で物理、物理基礎と物理があるのですが、そうした時に物理は数研、数研。化学は第一、第一、そして生物は東書、東書というふうに同じ会社の教科書を使うことによって接続、それから学習の仕方を同一にできるようなメリットを活用されて、基礎基本の徹底であるとか、それぞれの教科の特徴を生かした探究ができるような教科書を選択されているというふうに思っています。

それから明鏡さんですが、基礎学力の充実と、それから学習意欲の向上というこの2つを目標にされていて、やっぱり基礎学力を高めるためにどうしたらいいかというところで教科書を選んでおられるなどと思

います。物理とか化学基礎は大判の教科書で、教科書を見開きになると、その授業の1時間分の流れが見えるような工夫のある教科書を活用されていて、授業がパターン化できる。それから先生方や子どもたちが事業の流れを把握しやすいような教科書の選択がなされています。それから、学習意欲の向上に関しては、2年生で科学と人間生活っていう教科書を活用することを基本にしているのですけれども、そこに向けて、人間生活とそれぞれの物化生地(ぶっかせいち)ありますけれども、それぞれの教科の関わりみたいなのが出てくるような教科書を選択されるといことで、基礎学力、それから興味関心を高めるという面で非常に適切な選択ではないかと思ます。

それから高志中等さんですが、基礎教科の教科書が全部同じ会社です。数研を選択されています。中学校から同じように授業を受けた子どもたちが高校の部に、教育課程に上がっていくわけですけども、その時に同じ教科書を使うことによって、同じような今までのパターンが継続できるような、使えるような取り組みになっているかなというふうに思ます。ただ、その中でも探究的な学習を2年次、3年次では。思考しておられるので、そういう面で物理、化学、生物について生物のみですけども、第一出版の教科書を取り入れることによって、より仲間と協働したような課題解決学習ができるような、そういう教科書を選択されています。

こんなふうに各校それぞれ特徴がありますけれども、その特徴を生かせるような選択をされている、非常に適切な選択ではないかというふうに感じました。以上です

○教育長

ありがとうございます。ほかにございますでしょうか。

○神林委員

私は歴史の教科書を見させていただきました。歴史の教科書は歴史総合と日本史、世界史と分かれていました。その中で学校要覧によると万代高校では1年生で、明鏡高校では2年次に、高志中等教育学校では4年で全員に歴史総合の単位がありましたので、日本史と世界史は以降の学年で選択になっているということもあって、今回は歴史総合に絞って拝見させていただきました。

万代高校の第一学習社の教科書は、人類誕生から書かれていました。日本の石器時代なども記載されていて、興味深かったです。それから、17世紀以降の世界と日本の関わりは、地図を交えて分かりやすく記載されていました。第二次世界大戦は4ページほどの記載でしたが、戦後の日本と世界のつながり、世界の中の日本の役割、現在から未来に向けて多くのページを要して問いかけているように思いました。

明鏡高校の清水書院の教科書は世界史に強いように感じました。今一人一人がインターネット等で世界につながっていますので、限られた授業時間で学べるように、選択された世界史に動きをおいた清水書院の教科書は、多くの写真と随所にグラフや絵で説明があって分かりやす

く興味が惹かれました。どの教科書も巻末に年表がありますが、私は清水書院の年表が見やすかったです。年表の中に自分の興味の持ったところを書き込みしやすいなと感じました。

それから、高志中等教育の実教出版は古代の記載こそありませんでしたが、17世紀以降のことが丁寧に書かれていました。世界での出来事の中に、その時代の日本の状況が書き込まれていたり、随所に地図による説明があったり、芸術や文化も多数記載されています。第二次世界大戦も、どのように戦争に途中に突入していったのかから、戦争時の様子・沖縄戦・原爆・敗戦(終戦ではなく敗戦と書かれていました)。敗戦のことがきちんと記載されてあって、「戦争の記憶を伝えていくには」にもページを割いて、知ることが未来への平和につながっていると書かれているように感じました。一方で宗教等によって、いまだに侵略や内紛がなくなっておらず世界地図が書き換えられ続けていることも記載されて問題提起されています。そして、随所に歴史を読み取り考えようと意図されているように感じました。

今回、私が歴史の教科書と思ったのは、ここ10年くらい6年生に戦争絵本を20冊ぐらい使ってブックトークをしている関係で、ちょっと興味を持って、高校でどこまで深く学ぶのだろうと気になったんです。なので、戦中、戦後を特に注意深く拝見しました。歴史総合の教科書は3社ともに、戦後は、日本から世界を見るのではなく、世界の中の日本・世界とともにの視点で作成されていると強く感じました。

○教育長

ありがとうございます。他にございますでしょうか。

○大宮委員

私は公共の教科書を取り上げさせていただきました。先ほどの石坂委員が言われたように各学校の教育理念。また、何をメインで教えていくかというところを踏まえながら選ばれているなというふうに思いました。

公共と聞かれて私までも思ったのが、まず倫理と政治経済、国際という3つの単元が1つにまとまっているということで、私たちの時代は分かれていたところと一緒にいるな、ということがまず思いました。

また、学校ごとの特色がありまして、まず万代高校さんですと、こちらの教科書を使うのですが、最新の事例が載ってまして、これもちょっと私初めてここで学ばせていただいた形だったのですが、代理出産についての制度を程細かく載せてありました。ホストマザー型とかですね。サロゲートマザー型とかってというような言葉を介しながら、より深く学べるところで、今現在どういったことが行われているかというところをしっかりと教科書で教えている形になるのではないかなというふうに思いました。

また明鏡高校さんですと、面白いところで、求人票の見方とかですね。あと、また労働問題、就職した段階での労働契約の内容なんかもこれは漫画形式でしっかりと載っておりまして、それもやっぱり高校の特色がしっかりと反映されているのかなというふうに思いました。

高志中等さんについては、小さくまとめられているのですが、同じよ

うな単元が事細かな記述式の記事として大きくも色々と載ってまして、これで勉強するには十分足りていることではないかなど。また足りない部分に関してはそこからまたアクティブとかですね、問題提起をしていってより広げられるような単元になっているということで、3校とも教科書の選定については素晴らしい教科書を選んでいただいたというふうに思っております。

○教育長

はい、ありがとうございました。他にご発言はございますでしょうか。

第12号については承認をするということではよろしいでしょうか。

(異議なし)

それでは承認ということではよろしく願いいたします。

続いて議案第13号「教育委員会の事務の管理及び執行状況に関する点検評価について」は、議会へ公表前であることから非公開としたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(異議なし)

それでは、公開案件終了後に非公開案件として審議をいたします。

第3 報告

○教育長

続いて日程3報告です。令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について、生徒支援課から説明をお願いいたします。

○学校支援課長

はい、よろしくお願いいたします。4月18日に行われました全国学力・学習状況調査について、各教科における新潟市の結果を報告いたします。実施対象は例年どおり、小学校6年生と中学校3年生。教科は小学校では国語算数の2教科、中学校では国語、数学、英語の3教科で実施されました。

英語は令和元年度以来4年ぶりに行われることになりました。なお、英語は、今回は聞くこと・読むこと・書くことの3領域のみのご報告とさせていただきます。話すことについては、9月の定例会にてご報告をさせていただきます。

資料の見方についてご説明いたします。黄色の欄に新潟市の平均正当率と、そして水色に全国公立学校、薄緑色には新潟市を除いた新潟県の結果をまとめてあります。なお桃色は令和4年度調査における新潟市の平均正当率で、英語のみ令和元年度の結果となっております。

今年度は小学校の国語と算数、中学校の国語では全国平均を上回りました。しかし、中学校数学と英語では全国平均を下回り、特に中学校英語については3.2ポイントの下回りとなっております。本調査の結果は学力の特定の一部ということでありまして、問題及び調査対象の児童生徒が異なることから、単純比較はできないものとしておりますが、中学校数学、そして英語を中心に学習指導の改善を明らかにし、各学校に指導を行っていきたいと思っております。また、今後詳細な分析を進め、教育委員会として取り組みを定めていきます。詳細については、9月の定例会にて報告させていただきます。以上になります。よろしくお願い

いたします。

○教育長 ただいまの説明にご質問やご意見がありましたら、ご発言をいただければと思います。

○五十嵐委員 今のお話を受けて思ったのですが、中学校 3 年生の英語の正答率は 42.4% って話があったのですが、これは全国平均、県と比べてということよりもそもそも全国平均で見ても 50% を下回っているというのが、英語自体がちょっと難しすぎるというかですね。実情に合っていないんじゃないのかなという部分はあるかと思います。とは言っても、新潟市がどうこう言って、その文部科学省が変わるかどうかというのはまた色々あると思うのですが、確実にそこに生徒の理解の部分が半分には及んでいないという現実がありますので、例えばこういうところで、教師なり、先生方の方にこういう支援をすれば、もうちょっと正答率が上がるようなことができるのかなってこともあれば、ぜひ学校の方と連携していただければと思っています。よろしく願いいたします。

○教育長 ありがとうございます。ほかにございますでしょうか。
よろしいでしょうか。 それでは次に移りたいと思います。

第4 次回日程

○教育長 続きまして、日程第4「次回日程」について、教育総務課から説明をお願いいたします。

○教育総務課長 9 月の定例会でございますが、9 月 25 日月曜日、時間は午後 3 時 30 分から予定しております。よろしく願いいたします。

第5 公開終了

○教育長 以上で、公開案件を終了いたします。
これより、定例会を非公開といたしますので、ここで傍聴の方、報道の方についてはご退席をお願いいたします。

第6 定例会(非公開) 報告

○教育長 これより、定例会を再開いたします。
議案第 13 号「教育委員会の事務の管理及び執行状況に関する点検・評価(案)」について、教育総務課から説明をお願いいたします。

○教育総務課長 (教育委員会の事務の管理及び執行状況に関する点検・評価(案)について説明)

○教育長

○齋藤委員

○教育総務課長

○教育長

第7 定例会閉会

○教育長

それでは、以上ですべての案件が終了しましたので、これで定例会を

閉会いたします。

以上、会議のてん末を承認し、署名する。

署名委員

中津川 美子

署名委員

白田 典子